

## 岡山大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻における助産学実習の実際「産褥期集団指導」

合田典子, 白井喜代子, 岡崎倫加

---

キーワード: 助産学実習, 助産技術学, 集団指導, 産褥期指導

---

### はじめに

助産婦の業務は分娩時の介助のみならず、安全で主体性のある妊娠・分娩経過および産褥期の母児の経過を保障するために、妊娠・分娩・産褥の経過の理解や各期の適切な生活態度に関する保健指導が不可欠である。また、この時期における健康管理は今後の母性一生の健康管理に関わる姿勢、態度を身につける上で重要である。これら周産期における保健指導は単に疾病予防に止まらず、健康の保持・増進をめざした母性のヘルスプロモーションを確立することにあり、このことは助産婦の重要な役目である。

これら周産期の保健指導は、妊娠期から産褥期・新生児期を通して個人指導と集団指導および家庭訪問指導という形をとって実践されている。この度は、産褥期の集団指導を取り上げた。これらの集団指導は分娩後の早期産褥期にある褥婦に対して、各々1時間の予定で実施されているものである。

助産学特別専攻の学生は「沐浴指導」か「生活と育児指導」のどちらかを計画・実施することになっており、この資料は平成13年度に担当した学生の指導案(各々一編ずつ)のサンプルである。岡山大学での1年課程による助産婦教育の資料として投稿するものである。

### 産褥期集団指導案の作成と集団指導実施までの概要

関連する講義と演習を終え、6月中旬からの実習開始に伴い教官の指導の元で、母児の診察法・看護・個人指導の実施および集団指導の見学を経て、夏期休暇中に集団指導案を作成をする。指導案は9月上旬に担当教官へ提出する。指導案(資料)の点検指導を受けた後、9月下旬から集団指導の実施となる。

講義は5コマ(90分×5)とし、助産学の基礎的

な講義が進行した5月下旬から各々の集団指導内容に関わる理論説明を行う。実技指導は人形・模型を用いたデモンストレーションを行う。演習は4コマ(90分×4)とし、グループ学習を行い集団指導の模擬演習を実施し、評価指導を行う。併せて、学生の自主的な技術練習を促し、空きコマや放課後にいて個人指導を行う。

実習では、集団指導実施計画(表)は9月初旬に提示し、9月下旬から12月下旬までの期間に20名全員が順次計画・実施する。実習方法は対象を把握し、指導案の調整および教材作成の諸準備を行い、教官の点検指導を受けてから60分間の集団指導を教官同席のもとに実施する。指導後は実施者・見学学生および教官と共に所要時間、指導態度・言葉使い、内容の正誤やまとまり、教材の活用法、実技の正確性等について約30分の評価・反省を行う。

資料は、新生児期の「沐浴方法」に関する指導案および分娩後1ヶ月間における「褥婦の生活と新生児の保育」に関する指導案である。但し、指導案の全文は紙面の都合により割愛し、カリキュラム案のみを掲載した。

### 参考文献

岡山県病院助産婦研究会他編: 退院後のしおり  
岡山市: 母子健康手帳

表

## 産褥期集団指導計画

平成13年度

岡山大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻

実施予定週	沐浴指導	生活・育児指導
H. 13. 9／17～21		八島 彩子#
9／24～28	井上 満美	
10／1～5	鈴木 幸代	服部紗代里
10／8～12	小川亜沙子#	柴田 貴子
10／15～19	中間みちよ	小林 必生
10／22～26	藤井 鈴子	
10／29～11／2		米倉 麻美
11／5～9	政木 理恵	坪江 園子
11／12～16	大空美有紀	能勢 純子
11／19～23		河原 綾子
11／26～30	宮脇英理子	
12／3～7	藤田 麻早	細見 和加
12／10～14		赤木 泰水
12／17～21		峯岡 圓

12期生20名

- \* 事前に十分な見学と準備を行って実施すること。
- \* 計画された週に対象がいない場合は、その後いつでもできるように準備しておくこと。
- \* 指導前日までに、対象把握をし集団の特徴を提出すること。
- \* 必要物品は、前日までに借用手続きを済ませておくこと。
- \* 指導案は前週月曜日9:00までに提出し、指導後の評価表は翌日に提出すること。

但し、#は本資料の作成にリーダーとして寄与した。

資料

〈目 次〉

沐浴指導

設定 …… 3

目的・目標 …… 4

カリキュラム案 …… 5, 6

生活・育児指導

設定 …… 7

目的・目標 …… 8

カリキュラム案 …… 9, 10



## 沐浴指導

### 1. 設定

1) 場所: 岡山大学医学部附属病院北病棟4階産科病棟指導室

室温 25~27°C

湿度 50~60%

2) 日時: 平成13年10月29日(月)

11:00~12:00(60分)

3) 対象者

①産褥5日目の褥婦3~4人

経過良好で精神状態・一般状態が安定している。

②モデルベビー

・参加褥婦の児

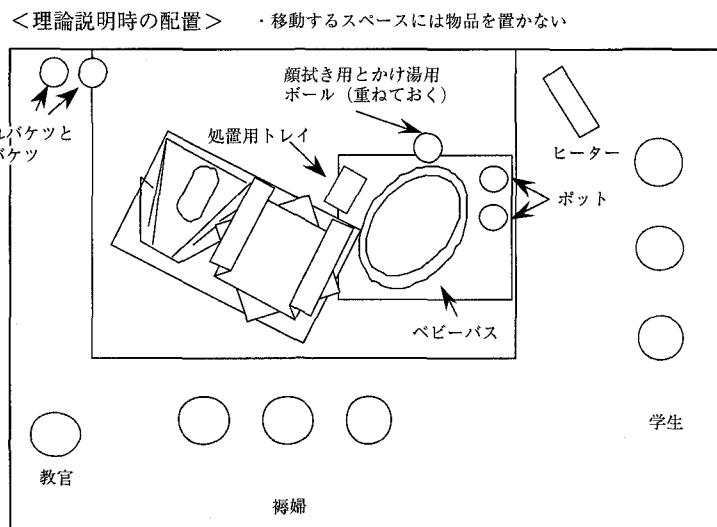
・健康で哺乳力・活気良好な児

黄疸が生理的な範囲であること

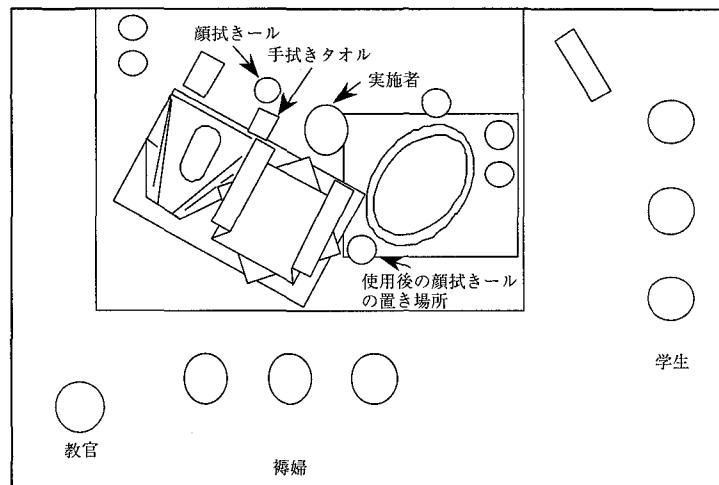
体重減少が生理的な範囲であり、増加傾向にあること

・臍脱している児

4) 全体の配置図



### ＜デモスト実時の配置＞



### 5) 教材

#### (1) 掛図 4枚

- ①プログラム
- ②新生児の観察
- ③外陰・臀部のお手入れ
- ④お臍の消毒

#### (2) 沐浴必要物品

・ベビーバスと湯	・座布団2枚と洗濯済みの着物一式とオムツ・
・湯温計	オムツカバー
・顔拭き用ボールと顔拭きガーゼ	・バスタオル2枚
・上がり湯用ボール	・タオル2枚
・処置トレー	・石鹼2個(児用・手洗い用)
(脱脂綿、綿棒、消毒用エタノール、ベビーオイル、体温計、胸当てガーゼ、ベビーブラシ、湯冷ましを入れた哺乳瓶・乳首・キャップ、汚物入れ)	
・着物入れバケツ	・熱湯と適温の湯の入ったポット
・ふたつきオムツ入れバケツ	・ビニールシート

#### (3) その他の必要物品

- ・資料(退院後のしおり、沐浴リーフレット)
- ・モデル人形
- ・指示棒
- ・温湿度計
- ・三角巾
- ・予防衣
- ・ズボン

## 2. 学習目的・學習目標

### 1) 学習目的

- ・個人指導と集団指導の違いを理解し、集団指導の計画と実施ができるようになる。
- ・集団の特徴を把握し、その集団に適した指導ができる。

## 2) 學習目標

## ① 準備

- ・開始10分前には準備が完了する。
- ・指導に必要な物品が不足なく準備できる。
- ・参加者の見やすさ、清潔、使いやすさを考慮した物品の配置ができる。

## ②指導態度

- ・参加者の反応や理解度を確認しながら指導を進めることができる。
- ・参加者に対し、丁重な態度で接することができる。
- ・対象ベビーの安全・安楽に配慮して指導を進めることができる。

### ③ 話し方

- ・専門用語を多用せず、話し言葉で分かりやすく説明することができる。
- ・指導のポイントが理解しやすいよう、言葉に強弱をつけて話すことができる。
- ・一つ一つの言葉をはっきりと発音することができる。
- ・指導に適した大きさの声で説明することができる。

#### ④ 教材の利用

- ・有効な教材作りができる。
- ・参加者の興味をひく教材作りができる。
- ・注目してもらいたい部分を明確に示すことができる。

## ⑤ 内容

- ・理論とデモストに一貫性を持たせて説明することができる。
- ・沐浴の必要性・方法について、正しい内容を伝えることができる。

## ⑥ デモスト

- ・正確な沐浴方法で実施できる。
- ・ベビーの安全・安楽に配慮して沐浴が実施できる。
- ・参加者が見やすい位置で、大きな動作で行うことができる。

## ⑦時間配分

- ・浴槽に浸かっている時間を7分以内で終了できる。
- ・各項目の時間配分を守り、予定時間内に指導を終えることができる。

### 3. 指導目的·指導目標

### 1) 指導目的

退院後1ヶ月間、家庭において母親が清潔性と安全性を守って新生児の沐浴をすることができる。

## 2) 指導目標

- ・新生児にとっての沐浴の必要性を理解でき、意欲をもって沐浴に取り組むことができる。
- ・新生児の観察の必要性と方法を理解し、日常生活の中で実施することができる。
- ・沐浴に適した環境について理解し、家庭において環境調整することができる。
- ・清潔で安全に沐浴を行うために必要な物品を理解し、事前に全ての物品を適切に準備することができる。
- ・新生児の身体の特徴をふまえた清潔で安全な沐浴法を理解し、沐浴が実施できる。
- ・沐浴後の児の処置の必要性と方法を理解し、清潔を守って実施できる。

1日1回観察しましょう



掛図② 新生児の観察

## 沐浴指導カリキュラム案

項目	項目目標	内 容	教 材	時 間	項目	項目目標	内 容	教 材	時 間	
I. 導入 挨拶	沐浴指導を受ける姿勢を整える。また、参加者の気持ちを和ませる。	1. 出席者の確認 2. お祝いの言葉 3. 出席へのねぎらい 4. 助産婦学生の自己紹介 5. 集団指導の目的 6. 予定時間について 7. プログラムの説明	口頭  掛図 ①	3分	3) 褒婦の準備  4) 物品の準備	清潔と安全を守った沐浴のための母親の身支度が整えられる。	3) 褒婦の準備 (1) 準備の原則 (2) 準備の種類 ①服装 ②髪型 ③アクセサリー、手の爪  4) 物品の準備と配置 (1) 必要物品の種類 ①用途 ②必要数 (2) 配置の原則 動線を短くする方法	退院後のしおり p12~13	(8分)	
II. 理論										
1. 沐浴の必要性	新生児の沐浴の必要性を理解し、家庭において実施できる。	1. 沐浴とは 2. 新生児期における沐浴の必要性	口頭	25分 (1分)		清潔と安全を守った沐浴を行う上で必要な物品とその使用方法を理解し、過不足なく準備できる。		実際の物品 (1) 必要物品の種類 ①用途 ②必要数 (2) 配置の原則 動線を短くする方法		
2. 沐浴の準備	児を清潔に安全に沐浴するための部屋の準備について理解し、適切な環境を整えることができる。	1. 準備の必要性 2. 準備の原則 3. 準備の種類 1) 部屋の準備 (1) 部屋の選択方法 (2) 部屋の整備方法	退院後のしおり p12	(2分)				沐浴槽、バスタオル、タオル、防水シーツ、ボール（顔拭き用・かけ湯用）、湯温計、肌着、おむつ・おむつかバー、沐浴トレー（体温計、綿棒、コットン、ベビーオイル、アルコール、汚物入れ、ベビーブラシ、胸当てガーゼ、哺乳瓶）、ポット、バケツ		
1) 部屋の準備										
2) 新生児の準備	沐浴を行う際の新生児の全身の観察法について具体的に理解できる。	2) 新生児の準備（観察） (1) 観察の必要性 (2) 観察部位と方法 ①全身から局所 ②頭部・顔 ③頸部 ④上肢 ⑤胸腹部・臍部 ⑥背部 ⑦下肢 ⑧外陰部・臀部	掛図② 退院後しおり p12,14	(3分)	3. 沐浴の方法	汚れやすい部分の洗い方について理解し、部位に応じた洗い方ができる。	1. 身体各部の洗い方 1) 洗い方の原則 2) 十分に洗う部位  2. 各部の洗い方 1) 顔の拭き方 2) 頭の洗い方 3) 体の洗い方 4) 外陰部の洗い方	掛図②	(3分)	

## 沐浴指導カリキュラム案

項目	項目目標	内容	教材	時間	項目	項目目標	内容	教材	時間
4. デモンストレーション	<p>沐浴後の処置の必要性と方法を理解し、部位に応じた処置が行える。</p> <p>沐浴時の抱き方について理解し、安全に沐浴が実施できる。</p> <p>①原則にのっとった沐浴の実際を見ることにより、やる気を持つことができる。</p> <p>②沐浴の方法と実際の手順を関連づけ、清潔と安全を守って沐浴が実施できる。</p>	<p>3. 沐浴後の処置について 1) 処置の必要性 2) 処置の方法 ①臍 ②口腔 ③耳 ④鼻腔 ⑤陰臀部</p> <p>4. 沐浴の手順説明</p> <p>5. 沐浴時の抱き方 1) 頭を洗う時 2) 湯につける時 3) かけ湯の時 4) 児を側臥位にする時</p> <p>1. 環境調整 1) 温湿度について 指導室の温湿度を確認する</p> <p>2. 指導者の準備 1) 服装について 2) 髮形について 3) その他の準備について ①アクセサリー、時計 ②手の爪 を確認し、手洗いをする</p> <p>3. 必要物品の確認 1) 物品の準備と配置の確認 ①処置トレイ ②顔拭きボール ③手拭きタオル ④バケツ (オムツ入れ・肌着入れ)</p>	<p>掛図 ②③④</p> <p>沐浴リーフレット モデル人形 デモスト</p> <p>指導室の 温湿度計</p> <p>指導者の服装</p> <p>実際の物品</p>	(3分) (5分) 25分	Ⅲ.まとめ	<p>沐浴実施における重要点を再確認し、それらをふまえ、家庭において安全と清潔を守った沐浴ができる。</p>	<p>4. モデルベビーの紹介 5. 新生児の観察 1) 全身の観察・検温法 2) 局所の観察 健康状態を判定する</p> <p>6. 沐浴・処置の実施 1) 沐浴の実施 (タップバス) 2) 臍の消毒と乾燥 3) 外陰部、耳、鼻、髪の手入れ 4) 湯冷まし</p> <p>1. 沐浴実施上の重要な確認 1) 沐浴の必要性と期間 2) 新生児の観察について ①観察の必要性 ②観察の部位・方法 3) 沐浴の準備について ①環境調整 ②実施者の準備 ③必要物品の準備・配置 4) 沐浴の実際について ①よく洗うべき部位 ②石鹼は少量で泡で洗う ③臍の消毒 ④湯冷まし</p> <p>2. 質疑応答</p> <p>3. 終了の言葉</p>	<p>モデルベビー モデルベビーと 物品</p> <p>退院後のしおり p14 掛図①②</p> <p>掛図②③④</p>	3分 3分 1分

## 1. 設定

1) 場所: 岡山大学医学部附属病院北病棟4階産科病棟指導室

温度 23~25℃

湿度 50~60%

2) 日時: 平成13年10月10日(水)

11:00~12:00(60分)

## 3) 対象者

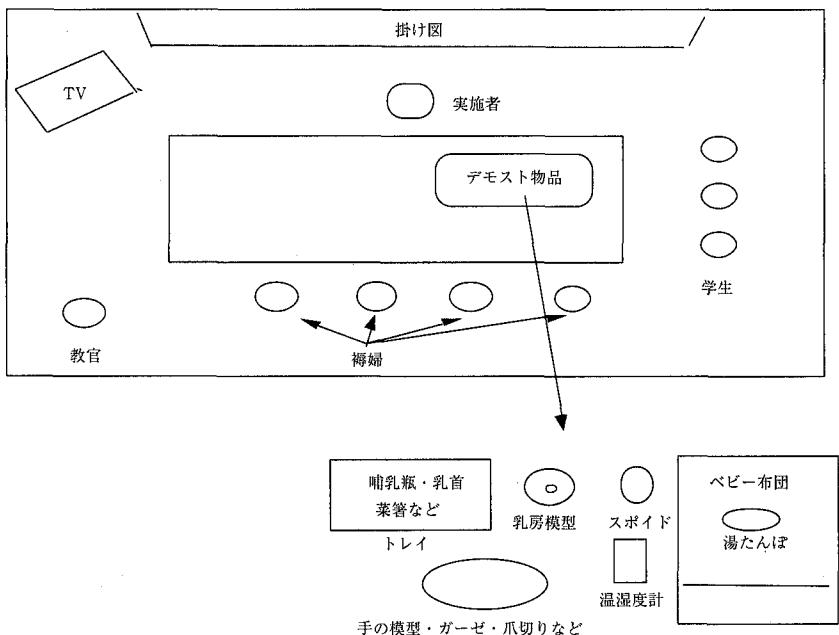
① 産褥5日目の褥婦3~4人

・産褥経過が良好で、一般状態の安定している褥婦

・2人以上の集団

・経産婦 人、初産婦 人

## 4) 全体の配置図



## 5) 教材

- ・掛け図 8枚 ①プログラム ②産褥期の経過と生活 ③日課表の作り方  
④腹部解剖図 ⑤乳汁分泌のメカニズム ⑥産後の月経周期  
⑦新生児の生理と特徴 ⑧新生児の部屋
- ・リーフレット(乳房マッサージ)
- ・パンフレット(退院後のしおり)
- ・母子健康手帳

## デモストの必要物品

a 外陰部洗浄	・スプイド容器
b 乳房マッサージ	・乳房模型
c 児の環境	・湯たんぽ
d 新生児の爪きり	・温湿度計
e 体位変換	・手の模型
f 哺乳瓶の組み立て方	・ガーゼ
g 各種届出	・新生児用爪きり
	・新生児の模型
	・ベビー布団
	・掛け毛布
	・哺乳瓶・ねじ蓋・乳首・押し蓋
	・キヤップ・菜箸
	・トレイ

## 参加者の必要物品

- ・筆記用具、メモ用紙
- ・退院後のしおり

## 会場の準備

- ・円座椅子(経産分娩褥婦用)
- ・机・パイプ椅子(帝王切開用)
- ・椅子(教官・学生用)
- ・指示棒
- ・マグネット20個

## 2. 学習目的・学習目標

## 1) 学習目的

- ・個人指導と集団指導の指導方法の違いを理解し、集団指導の計画と実施ができるようになる。
- ・集団の特徴に合わせた指導ができるようになる。

## 2) 学習目標

## ①準備

- ・対象者を十分に把握して、適切な調整をすることができる。
- ・十分な練習を実施して、本番に臨むことができる。
- ・開始30分前には会場の準備を完了することができる。
- ・学生間で連絡を密に取り、協力できる。

## ②指導態度

- ・対象褥婦を尊重し、1人1人の反応を見ながら指導することができる。
- ・学生らしく明るく和やかな雰囲気を出せる様心がける。
- ・落ち着いて指導できる。
- ・指導者としての身だしなみを整えることができる。

## ③話し方

- ・専門用語を多用せず、わかりやすい話し言葉を用いることができる。
- ・ゆっくりと大きな声で話すことができる。

## ④教材活用

- ・指導に有効な教材の作成と活用ができる。
- ・掛け図、モデルは対象者全員に見えやすい位置に設置し、説明するときにはポイントを指しながらわかりやすく指導することができる。

## ⑤内容

- ・一方的な指導にならないように対象褥婦も共に参加できるようにする。
- ・正しく適切な内容の指導ができる。
- ・簡潔でわかりやすい内容とすることができる。

## ⑥デモスト

- ・デモストを褥婦に見えやすく、正確に行うことができる。
- ・大きな動作で、わかりやすく行うことができる。
- ・清潔と不潔の区別をふまえた実技ができる。

## ⑦時間配分

- ・指導目的・目標に基づいた適切な時間配分を行い、予定時間内に終了できる。
- ・褥婦の疲労度に気を配りつつ、途中で休憩を入れることができる。

## 3. 指導目的、指導目標

## 1) 指導目的

- ・産褥期の心身の変化について理解し、順調な回復と健康増進するために必要な健康管理方法について理解する。
- ・新生児期の生理と特徴を理解し、新生児の順調な発育と異常を予防するために必要な保育方法について理解する。

## 2) 指導目標

## ①褥婦

- ・産褥期の生理を理解し、自らの体の変化に興味を持ち、健康管理の必要性が理解できる。
- ・退院後の日常生活と動性拡大について理解し、生活復帰を無理なくスムーズに行うことができる。
- ・復古促進法の必要性と方法について理解し、毎日の生活に取り入れることができる。
- ・母乳の分泌のメカニズムと母乳分泌促進の具体的な方法を理解し、母乳栄養の継続への意欲を持つことができる。
- ・清潔保持の必要性と方法を理解し、感染の予防ができる。
- ・授乳期の栄養の必要性と食生活のあり方について理解し、健康を保持増進することができる。
- ・産褥期の家族計画の立案方法を理解し、適切な受胎調節法（避妊法）が理解できる。
- ・産褥1ヶ月健診の必要性が理解でき、適切な時期に受診できる。

## ②新生児

- ・新生児の生理と特徴が理解でき、新生児に最適な保育のあり方を考えることができる。
- ・新生児の生理に適した保育環境の調整法について理解し、実施できる。
- ・新生児の清潔保持の必要性と方法を理解し、感染の予防ができる。
- ・母乳栄養の意義を理解し、母乳栄養の確立に必要な授乳方法についての理解し、実施できる。
- ・新生児期に起こりやすい異常の早期発見法と対処法が理解できる。
- ・退院後の各種届出を理解し、期限内に正しく届け出ることができる。
- ・新生児の1ヶ月健診の必要性が理解でき、適切な時期に受診できる。

## 生活・育児指導カリキュラム案

項目	項目目標	内 容	教 材	時 間	項目	項目目標	内 容	教 材	時 間
I 導入	①和やかな雰囲気をつくることができる。 ②指導の目的と本日の指導概要が理解できる。	1. あいさつ 2. 助産婦学生の紹介 3. 指導目的 4. 予定時間 5. 指導の概要説明	口頭 掛け図①	3分	5)性生活 3.復古促進法	産褥1ヶ月間の性生活のあり方がわかる。 ①復古促進の必要性を理解し、具体的な復古促進法の方法が理解できる。 ②復古促進法を毎日行うことができる。	5. 性生活のあり方 1) 性生活の影響 2) 性生活の開始時期 1. 復古促進法の必要性 2. 復古促進法 1) 着帯の方法と期間 2) 排泄の必要性 3) 産褥体操の意義 ①体操の種類・方法 ②体操の進め方	しおりp 5 掛け図②	
II 本論 褥 婦					4分	4. 乳汁分泌促進法	①乳汁分泌の機序が理解できる。 ②具体的な乳汁分泌促進法がわかる。	1. 乳汁分泌のメカニズム 2. 促進法 1) 全身的管理法 精神的安静、十分な睡眠・休息、栄養・水分摂取 2) 乳房管理法 ①十分な授乳 ②乳頭・乳輪マッサージ SMCの原理と実際	しおりp 2 掛け図② 掛け図④ しおりp 2
1. 産褥の生理	産褥期の身体の生理的变化と特徴について理解し、自分自身の体調管理、異常の予防と早期発見につなげることができる。	1. 産褥期とは 2. 身体の変化 1) 子宮復古のしくみ 2) 外陰部の変化 3) 悪露の変化 4) 乳汁分泌の変化 5) 腹壁の変化 6) 体重の減少 7) その他の変化	しおりp 1 掛け図②		9分	5. 家族計画	①「家族計画」の正しい意味を理解し、家族計画の必要性について理解できる。 ②家族計画の実施のために必要な受胎調節法を理解し、正しい避妊法が選択できる。	1. 家族計画の理念と意義 2. 産褥期の家族計画の立て方 3. 産褥期の受胎調節法 1) 産後の月経周期 2) 産後の避妊法	しおりp 4 リーフレット デモスト(物品b) しおりp 5
2. 日常生活 1)動静拡大	①産褥の生理を踏まえて産褥1ヶ月の動静拡大の方法が理解でき、自分の身体の復古状態に応じて徐々に動静拡大が行える。	日常生活 1. 産褥1ヶ月間の動静拡大について	しおりp 1 掛け図②						3分
2)日課	②心身の復古を促すために必要な、産後の1日の過ごし方がわかる。	2. 1日の過ごし方 1) 原則 2) 日課表の立て方	掛け図③						
3)身体の清潔	産褥の生理をふまえた具体的な清潔の必要性と方法を理解し、感染予防に努めることができる。	3. 身体の清潔 1) 清潔の必要性 2) 全身の清潔法 3) 局所の清潔	しおりp 3 掛け図②						
4)栄養	産褥期の栄養を適切に摂取するため、産褥期に必要な栄養素や摂取方法について理解できる。	4. 産褥期の栄養 1) 産褥期の栄養の必要性 2) 栄養の質と水分摂取 3) 間食の必要性と取り方について	物品 (物品a) しおりp 3, 4		6. 1ヶ月健診	1ヶ月健診の必要性と受診時期を理解し、適切な時期に受診できる。	1. 健診の必要性 2. 受診時期と方法 3. 産褥期の異常と早期発見について	しおりp 5 掛け図②	1分

生活・育児指導カリキュラム案

項目	項目目標	内 容	教 材	時 間	項目	項目目標	内 容	教 材	時 間
新生児									
1. 新生児の生理と特徴	①「新生児期」について理解できる。 ②適切な保育をするために必要な新生児の生理と特徴について具体的に理解する。	1. 「新生児期」とは 2. 健康な児の生理と特徴 1) 一般状態（体温、呼吸） 2) 泣き方 3) 体重 4) 運動・姿勢 5) 眠眠 6) 黄疸 7) 皮膚 8) 脣部 9) 感覚器 10) 哺乳 11) 尿、便	口頭 掛け図⑦ しおりp6	5分		③母乳不足の見分け方、その補い方が理解でき、母親の不安を解消することができる。 ④児への感染予防のため、哺乳瓶を清潔に取り扱うことができる。	3. 母乳不足の見分け方 4. 5%砂糖水の補い方 5. 哺乳瓶、乳首の消毒方法と組立方 1) 必要物品 2) 哺乳瓶の消毒方法 3) 哺乳瓶の清潔な組立方	しおりp10 しおりp9, 10 (物品 f) デモスト	
2. 保育法	①新生児に適した保育環境について理解し、整えることができる。 ②身体各部の清潔の必要性とその方法を理解し、実施できる。 ③新生児の特徴を踏まえ、体位変換の必要性とその方法が分かる。	1. 室内環境 1) 部屋 2) 保温方法 2. 寢床 3. 衣服 4. 身体の清潔法 1) 全身…沐浴のすすめ 2) 口腔の手入れ 3) 爪切りの方法 4) 脣の手入れ 5) 陰部の手入れ 5. 体位変換 必要性と方法	しおりp7 掛け図⑧ デモスト(物品C) しおりp7 しおりp8 しおりp8 デモスト(物品d) 掛け図⑦ デモスト(物品e)	7分	4. 1ヶ月健診 5. 異常症状について 6. 各種届出	①1ヶ月健診の必要性と受診時期を理解し、受診することができる。 ②異常の予防、早期発見を行うために新生児期に起こりやすい異常症状について理解できる。 ③各種届出の必要性と届出方法、その時期について理解し、正確に記入した後、期限内に届け出ができる。	1. 健診の必要性 2. 受診場所、時期 3. 手続き方法と持参物品 1. 早期受診が必要な場合の異常症状について 機嫌、体温、呼吸、黄疸、嘔気・嘔吐、便等 1. 出生届 2. 母子健康手帳の活用法 3. 先天性代謝異常の検査 4. 神経芽細胞腫の検査 5. 乳幼児医療費助成制度	しおりp11 しおりp11 母子健康手帳 制度の用紙	2分 3分 3分
3. 栄養	①児が健康に発育するために母乳栄養の利点が理解できる。 ②自律授乳の意義と方法について理解できる。	1. 母乳栄養の利点 2. 自律授乳について 1) 自律授乳とは 2) 授乳方法と注意点	口頭 しおりp9 掛け図⑤	6分	III まとめ	①本日の指導内容の要点を復習し、知識の確認を行う。 ②疑問点の解決	1. 婦婦の健康管理について 2. 新生児の保育について 掛け図①を主に、 ②～⑧を適宜用いる	掛け図①を主に、 ②～⑧を適宜用いる	5分

Nursing practice on Midwifery "Postpartum group guidance"  
by Okayama University School  
of Health Sciences Advanced Course of Midwifery

Noriko GODA, Kiyoko SHIRAI, Yuka OKAZAKI

---

**Keywords** : nursing practice on Midwifery, techniques of Midwifery,  
group guidance, postpartum guidance

---

Faculty of Health Sciences, Okayama University Medical School